

2. 地区の災害特性及び防災対策の方向性の補足（東習志野小学校区）

1) 地区内の人口状況：平成 25 年との比較

◆市総人口：161,047 人/H25 年 ⇒ 175,065 人/R5 年 【14,018 人増】

	H25 年 3 月		R5 年 3 月		備考
地区全体	12,312 人	⇒	13,596 人	★1,284 人の増加	
0 歳～ 9 歳	2,087 人	17.0%	2,200 人	16.2%	●全体として人口が増加また、14 歳までの人口も増加
10 歳～14 歳					
15 歳～19 歳					
20 歳～29 歳					
30 歳～59 歳	7,882 人	64.0%	8,290 人	61.0%	●65 歳以上の人口数対生産年齢人口数比 ★1 人対 2.7 人
60 歳～64 歳					
65 歳～69 歳					
70 歳～79 歳	2,343 人	19.0%	3,107 人	22.9%	
80 歳以上					

2) 丁目ごとの標高

◆東習志野

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
2 丁目	29.0m	10 番 3 号付近の道路	25.4m	1 番 2 号実籾交番	3.6m
3 丁目	28.4m	3 番 1 号付近の道路	25.7m	1 番 27 号付近の道路	2.7m
4 丁目	28.6m	7 番 10 号付近の道路	26.3m	20 番 8 号付近の道路	2.3m
5 丁目	28.8m	14 番 11 号付近の道路	24.6m	34 番 4 号付近の道路	4.2m

◆実籾

丁目	最高	場 所	最低	場 所	高低差
4 丁目	28.1m	44 番実籾 3 号公園	23.3m	1 番 1 号付近の道路	4.8m

※国土地理院地図データから職員が手作業により、検索しているため、多少のズレ有

3) 丁目ごとの災害特性：全壊・半壊棟数＝千葉県北西部直下地震想定時

丁 目	揺れ		液状化	河川氾濫浸水	内水氾濫浸水	高潮浸水	土砂災害
	全壊	半壊	全半壊				
東習志野 2 丁目	9 棟	26 棟	0 棟	なし	34 棟	なし	なし
東習志野 3 丁目	27 棟	83 棟	0 棟	なし	74 棟	なし	なし
東習志野 4 丁目	33 棟	112 棟	0 棟	なし	5 棟	なし	なし
東習志野 5 丁目	35 棟	122 棟	0 棟	なし	23 棟	なし	なし
実籾 4 丁目	19 棟	64 棟	0 棟	なし	9 棟	なし	なし

4) 住民の視点から見た地区の災害特性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	防災体制	◆避難所である東習志野小学校には、現状として毛布や水などの避難用具が十分に用意できていない。
2	避難所・避難場所	◆東習志野 4 丁目、5 丁目では、一時的に避難するための空地が減ってきている。
3	避難経路	◆ブロック塀、小学校周辺の防風林の倒壊により、各幹線道路等が通行できなくなる可能性がある。
4	備蓄・物流	◆東習志野小学校から遠方の区域（実籾 4 丁目、東習志野 5 丁目の一部）では、集会所へ避難した場合の支援物資の供給に不安がある。
5	防災行政無線	◆市防災行政無線放送は、風向きにより、聞きとりにくいことがある。

5) 住民の視点から見た防災対策の方向性：H25 年ワークショップ

連番	区 分	意見等内容
1	防災体制	◆行政に頼ってばかりではなく、自助・共助も必要であるため、地域で具体策を検討する必要がある。 ◆各町会間で、防災に関する情報共有などを行うための「連絡会議」の立上げを進める。
2	防災対策	◆火災発生時には声かけによる早めの避難を心がけ、また、消火活動のための消火器具の整備や雨水の利用について、検討する。 ◆火災の発生・延焼の被害を防ぐため初期消火が必須であり自衛のための消火設備、使用マニュアル等の整備が必要である。
3	防災訓練の実施	◆町会などで備蓄している水・食料は年に 1 度更新するため古いものは防災訓練等で配布し、その際に、防災について子供達にも意識付ける必要がある。